

川西の古い道標めぐりコース（新中部編）

令和七年（2025）六月五日（木） 拾貳軒改め拾壹軒（11km）

一般向き 適度なアップダウンあり

③ 池田道へ向かう道しるべ（建立年 不明）
真ん中の一番大きな道標は、池田方面から能勢・篠山方面へ通じていた池田道（能勢街道）と上野村を経て三田方面に分かれる三田道へ通じる分岐点に置かれていたと思われれます。上野は猪名川町静思館付近の字名で中谷村の中心地で栄えていました。

④ 加古川の舟渡し場の道しるべ（建立年・不明）
なぜ 10 里（約 40 km）も西にある加古川の重たい石の親柱風のものがここにあるのかは分かりません。これが本当に加古川にあったものなののでしょうか？

⑤ 墓碑に刻まれた道しるべ（嘉永二年西暦 1849）
柳谷の地区墓地入口に柳川利助の墓碑が建てられていて、その基壇右端に道しるべが刻まれています。もとは柳谷村入口付近かと思われれますが定かではありません。何かの理由でこの地に移したようです。柳谷村出身者で常盤山門弟の力士だと伝えられています。

B 若宮（わかみや）
14 世紀の南北朝時代、足利軍に敗れた後醍醐天皇の皇子は満願寺の裏山の奥深くにあるこの地に側近と隠れ住んだという話が伝わります。15 歳で崩御、墓をつくって丁寧に祀ったものの、北朝の足利側に探知され破壊されました。後に皇子を偲んで若宮の地名が生まれ、皇子の墓地跡が今の子安地藏尊堂の地といわれています。満願寺は正中二年（1325）に後醍醐天皇の勅旨によって勅願寺となっています。

⑥ 若宮の分岐点に残る道しるべ（建立年 不明）
後醍醐天皇の皇子ゆかりの若宮地区の出入口付近にあります。道標のすぐ先の分岐を右へ進めばトツケ峠越えて満願寺や巡礼道へ繋がり、やや左に直進すると愛宕山の山裾を東へ進んで⑦が立っていたと思われる分岐点に行けるようです。

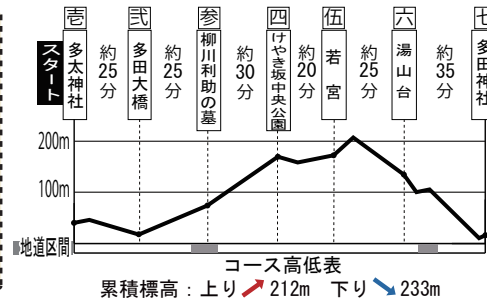
C 力士の墓標（天保十四年西暦 1843）
前述の柳谷地区同様、若宮地区も山深い隠れ里のような場所でしたが、相撲興行が盛んだったようです。それを示す力士、大坂常盤山猪名川取り締め配下、龍田川部屋、若緑榮蔵の墓標です。トツケ道（丹波）坂と池田道の合流する付近に建てています。近くを流れる紺青谷川（こんじょうたにがわ）の名前は多田銀銅山の中でも紺青石が多く採れたことに由来するようです。

② 猪名川町にあった道しるべ（建立年・不明）
②③④ともに店舗敷地内の駐車場脇に大切に保存されています。右側の一番小さな道標は、左へ行くと槻並村、右は山の中ということから、猪名川町槻並の手前にある烏帽子岩橋あたり（道の駅いながわ近辺）の旧道分岐点に立っていたものと推測されます。

保存版

熱中症予防のために
小まめな水分補給を
心掛けてください！

すくい
A 寿久井の地藏尊（通称：駒塚地藏尊）
源満仲（みなもとみつなか）の九頭竜伝説のひとつ。領地の巡視途中で年老いた女性が現れ、乱暴な龍を退治して欲しいと贈られたのが龍馬（りゅううめ）という頭に角が生えた馬。ひと鞭で千里を行き来して疲れのない珍しい馬で満仲はたいへん可愛がっていました。龍馬が年老いて死んだ後も多田院に近い移瀬にお堂を立て弔ったと伝わります。【車道を渡る際は北側にある信号交差点を横断してください】



熱中症予防のために
小まめな水分補給を
心掛けてください！



マナーウォーク
マナー向上を目指しましょう。

左ゆもどみち

⑩ 平野湯への道しるべ（建立年不明）
スタート地点の直前、多太神社への参道左下の自治会館横に移設されている大きな道標で旧能勢街道と参道との辻に建っていたものと思われる。

E 多田院参道の道しるべ（明和七年西暦 1770 田沼意次が活躍した時代）
江戸時代、大坂・池田方面から能勢街道で古江と東多田の間にある横山峠を越えて多田院へ参詣する人たちのために建てられたものです。銘文によると古くからあった道標をこの年に再建したことが示されていますが、再建時の位置は定かではありません。摂津名所図会には多田川（猪名川）沿いの参道脇によく似た石標が見られます。

表面
多田御社道
明和七年庚寅五月
多田院三拾五世高龍再建

道標の性格上、仏像が彫られていたと思われるかもしれませんが、明治維新の廃仏毀釈の影響で削り取られた可能性があります。

- 凡 例
- 古い道標
 - 墓標・石塔など
 - トイレ
 - コンビニ・スーパー
 - 阪急バス停留所

⑦ 満願寺と若宮への道しるべ（建立年 不明）
湯山台地藏尊の祠の中に祀られているお地藏様の下部に道しるべが刻まれています。もとはもう少し西側にある下池の東あたり、満願寺道と若宮との分岐点にあったものと思われる。ここから満願寺道を辿ります。

⑨ 猪名川増水に渡し舟の道しるべ（建立年 不明）
妙見宮への立派な献灯が残る脇を入ると猪名川に出ます。江戸時代頃までは簡易な木製の橋が架かるだけで大雨の後などは川が増水して使えなくなったことがしばしばあったでしょう。かつては献灯のある場所より西側のタバコ店角に建っていましたが宅地造成で毀損し、現在は多田神社社務所裏に横にして保管されています。

熱中症予防のために
小まめな水分補給を
心掛けてください！

D トツケ峠（丹波坂）
西多田村絵図には、若宮から満願寺に通じるトツケ峠がありトツケ海道と書かれています。トツケとは並外れたとか途方もないという意味で、当時はたいへんな難所であったと思われます。今でも小字（こあざ）名にトツケや戸附が残ります。

～ 注意事項 ～

- ①参加者のけがや他に与えた損害などについては、当社は一切の責任を負いません。万一事故が生じた場合の費用は参加者負担となります。
- ②係員の指示及び注意事項は必ず守ってください。
- ③天候の急変等、主催者の判断によりコースを変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
- ④道標近辺の家屋、施設などに迷惑の掛からないようにご配慮願います。

スタッフへの緊急連絡先：090-3490-3044
（当日開催時間中のみ）

能勢電鉄 鉄道事業部 営業担当：072-792-7716

参考文献：かわにしふる里散歩 3/ 川西市 発行
川西の歴史散歩 / 山田裕久著 地名の川西史 / 菅原 巖 著
川西ええとこ絵図 / NPO 法人 川西再発見 発行

主催：能勢電鉄